

◆公園の利活用・適正化における基本的な考え方案

2.9 本計画で対応すべき課題

■既存ストックの有効活用により「質」を高める

課題1 量より質を高める公園整備

- ・豊川市の1人当たり都市公園面積は、国が示す標準値である10m²/人以上を確保しており、今後は既存ストックを有効活用し、量より質(施設面、運営維持管理面)を高めるための取り組みが求められます。
- ・本市は、寺社や史跡、山や川など良好な緑地環境に恵まれており、それらを公園配置にも生かしていくことが重要です。

課題2 公園配置の見直し

- ・機能が類似する公園が複数分布している地域では、該当する公園の役割や利用状況などを勘案した上で、用途転換も含めて配置の見直しを図る必要があります。
- ・利用が少ない公園、土地開発行為により提供される小さな公園、都市計画決定後に未取得・未整備が続く長期未整備の公園などの課題のある公園については、公園の適正配置の再編と活用方法の見直しが求められています。

■変化する利用ニーズに対応した公園機能や公園の使い方の見直し

課題3 利用実態に適合した機能配置

- ・子どもの成長や生活スタイルが変わることで、時代に応じて求められる公園へのニーズは常に変化し、公園規模や地域環境(まちの形成過程、土地利用の方針、人口構成、公園分布状況など)によって利用ニーズが異なっており、画一的な仕様になっている公園ではそのニーズに対応しきれないことから、ニーズに沿った公園機能、施設内容の見直し等ができる仕組みを含めた方針転換が必要となっています。

課題4 公園が使いやすくなる柔軟な使い方への転換、利用機会づくり

- ・公園を利用する様々な世代に、憩いの場として楽しく過ごす空間とするため、地域単位での公園の使い方ルールの設定や周知、安全への配慮、快適な環境管理、公園を利用する機会づくりや情報発信等を行っていく必要があります。
- ・市の財政状況において、常に変化する利用ニーズに対応するハード整備には限界があり、利用したくなる公園とするにはイベント等のソフト事業による対応を含めた仕様や柔軟な使い方への転換などを再編に合わせて取り組む必要があります。
- ・公園は近隣住民が地域への愛着を醸成する場としての役割もあり、公園の利用目的がない人も含めて多くの人が公園に訪れるような、きっかけづくりが求められています。

■効果的・効率的な公園整備と管理運営

課題5 更新時期にある公園の再整備

- ・経年劣化している公園や施設については、早急な再整備や施設改修が必要です。その中で、類似した遊具が複数分布する地域では、各公園施設の差別化を図り、地域全体で公園の魅力を高める再整備や施設更新が求められています。

課題6 限られた財源を踏まえた整備、管理運営

- ・少子高齢化を勘案し、限られた財源の有効活用を図った効果的、効率的な公園の整備、管理運営が必要です。そのためには、維持管理コスト縮減に向けた取り組みが重要となります。
- ・雑草や樹木などの管理が行き届いていない状況が利用低下の要因のひとつになっており、計画的で効率的な維持管理とともに、維持管理しやすい公園施設への見直しが必要となっています。

課題7 公園に関わる活動団体への支援や負担軽減

- ・清掃等の維持管理に関わる地元団体からは、活動継続の課題としては、メンバーの高齢化やそれに伴う人材の確保などがあります。地元団体の管理を継続するために管理がしやすい公園にしていくことが求められます。また、地域と公園との継続的なかわりを持った公園管理・運営の仕組みづくりが重要であり、町内会などの公園活動に対し積極的に支援していく必要があります。
- ・公園の管理は町内会だけでなく、利用実態に即した団体等と連携を図るなど、公園を取り巻く地域環境に応じた柔軟な管理形態が望まれます。
- ・公園施設の効率的な運営及びサービス水準の向上のため、指定管理者制度や P-PFI 制度などの民間活力導入を推進させていく必要があります。

3. 公園の利活用・適正化における基本的な考え方

3.1 目指すべき姿

本市には約 260 箇所の公園があり、市全域や隣接市町からの来訪者など広域性を持つ大きな公園から、日常的に利用されている身近な小さな公園などその形態はさまざまですが、公園種別、公園特性により公園の役割が分担されており、利用者は自分たちのライフスタイルに応じて、憩いやレクリエーション、健康づくり、散歩、スポーツ、災害時のオープンスペース等、公園を暮らしの中で活用しています。

そのような暮らしにおいて、これまで人々が公園を利用しながら時間をかけて身に付けた生活スタイル、いわゆる「公園カルチャー（文化）」が培われてきました。

今後は人口減少や少子高齢化社会による社会情勢の変化、子育て世代が住みやすい生活環境づくりや高齢者の健康増進等のニーズの変化がさらに進んでいくなかで、公園がある地域に居住している人の現在の生活だけではなく、公園を取り巻く地域のこれまでに積み重ねられてきた歴史や様々な知恵なども活かしていくことがさらに求められています。また、地域によっては、人口構成の変化に伴う公園に対するニーズの変化や同質の公園の集積などにより公園が活用されていない状況もあり、将来の暮らしを想定した公園配置の見直しが必要となっています。

本計画は、公園の利活用・適正化に向けて、公園が地域に愛される”暮らしの舞台”として、地域力の発現の場として大きな力を発揮し、地域全体の公園機能の向上により、まちの暮らしの活力となり、豊川らしい新たな公園カルチャー（文化）が進化していくことを目指します。

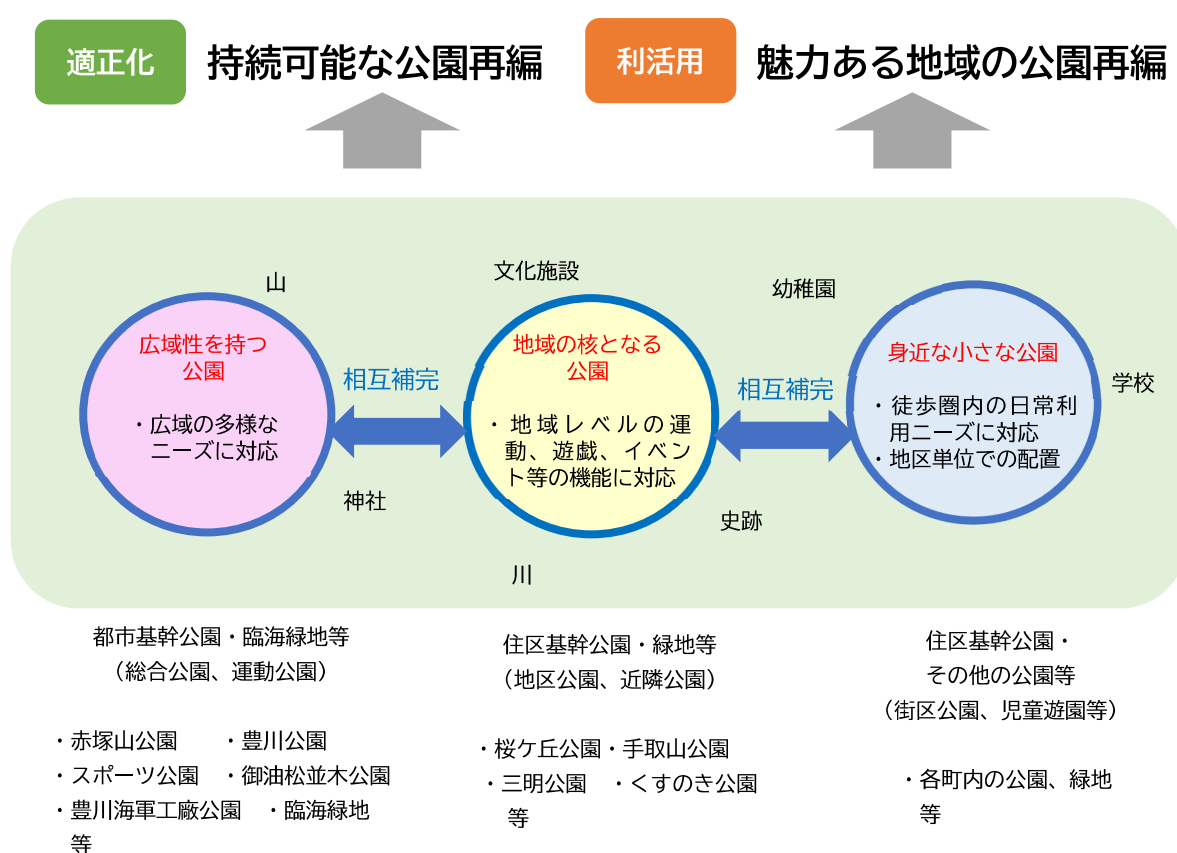
地域に愛される”暮らしの舞台”としての公園の再生

3.2 基本目標、基本方針

(1) 基本目標

目指すべき姿を踏まえ、各公園について「広域性を持つ公園」「地域の核となる公園」「身近な小さな公園」といった役割分担を行うことで、都市及び地域全体で利用者の目的に応じた機能の再編を実施していきます。

各公園の役割分担を図りながら、公園相互のネットワークや周辺に存在するまちの資源や公共施設、川や山などの自然との関連性を考慮することで地域全体のニーズを満たし、持続可能な公園、魅力ある地域の公園の2つの再編の実現を目標としていきます。



(2) 基本方針

① 市域全体の公園機能の向上を図られるよう公園機能の適正な再配分を行います

[対応する主な課題]

課題1 量より質を高める公園整備

課題2 公園配置の見直し

課題3 利用実態に適合した機能配置

- ・まちづくりの方向性との整合を踏まえ、**地区単位で公園を群として考え、機能を再配分**することで地区全体の公園機能の向上を図り、市域全体の公園の魅力づくりにつなげます。
- ・地域の核となる大きな公園と身近な小さな公園で、規模に応じた適切な役割と機能の配置を行います。
- ・公園近辺に存在する自然資源や史跡、公共施設等、**まちの財産とのネットワークや相互補完を図った配置**を行います。
- ・機能の類似や周辺土地利用、人口状況、防犯面・防災面などの課題があり今後も利用が見込めない公園については用途転換により周辺の公共施設への活用や転用を検討します。

② 様々な人が使いやすく魅力ある公園となるように機能の向上や利活用の推進に取り組めます

[対応する主な課題]

課題1 量より質を高める公園整備

課題2 公園配置の見直し

課題3 利用実態に適合した機能配置

課題4 公園が使いやすい柔軟な使い方の転換、利用機会づくり

課題7 公園に関わる活動団体への支援や負担軽減

- ・地区特性に応じて使いやすく魅力ある公園となるよう公園機能の充実を図ります。
- ・様々な人が、お互いに譲りあいながら**気持ちよく公園を利用できるようなルールづくりや、公園を利用する機会づくり**に取り組めます。
- ・多様な利用者が年齢層や利用目的に応じ町内に存在する複数の公園に対し、それぞれの機会ですら楽しく利用できるよう、**地区の特性に応じた各公園の機能特化**を進めます。
- ・公園は利用機能ばかりでなく、存在機能にも価値があります。それは、オープンスペースとして都市の景観や環境保全、防災面ばかりではなく、利用者の心理面に有益性があり、**利用目的がない人もなんとなく訪れるなどの存在機能**についても地域の実情を考慮して取り組めます。

③ 既存ストックの効果的・効率的な改修の実施や官民連携を図った柔軟な管理運営を推進します

[対応する主な課題]

課題2 公園配置の見直し

課題3 利用実態に適合した機能配置

課題4 公園が使いやすい柔軟な使い方への転換、利用機会づくり

課題5 更新時期にある公園の再整備

課題6 限られた財源を踏まえた整備、管理運営

課題7 公園に関わる活動団体への支援や負担軽減

- ・安全・安心・快適な公園利用につながる改修を優先し、**各公園の役割や機能に沿った改修**を行います
- ・既存ストックの再生・延命化、余剰機能の廃止等、効率的な管理を検討し、行政の財政負担軽減を図ります
- ・公園管理は、地域との合意に基づき、町内会との連携以外にも公園で活動する団体なども含めて**協働を推進し、柔軟に対応できる体制を整えていきます。**
- ・町内会や民間団体が公園を活用しやすくなるように活動支援などを検討します。
- ・多くの人が集まるような核となる公園には、公募設置管理制度（Park-PFI）を活用するなど、民間活力の導入を推進します。